

上海旅行記（2024/6/16~6/20）

<旅行の動機>

1. 「郷 僕らの道しるべ」が第26回上海国際映画祭にノミネート

(1) 2024年5月中旬、私の友人の小川夏果さんから突然私の携帯に電話が入ってきた。鹿児島に住み、女優兼プロデューサーの仕事をしている彼女とは時々必要な時に連絡を取っていたが、そのほとんどは急ぎではないため、メールやWeiboが中心だった。しかも、直近の予定は何も入っていないから、電話が入ってくるのは珍しい。一体何事かと思って携帯を取ると、「『郷 僕らの道しるべ』が上海国際映画祭に出品することが決まった。私たちは6/12~21まで上海に行く。先生も一緒に行きませんか？」ということだったから、ビックリ！

(2) 私と小川夏果さんが知り合ったのは、第1に公益社団法人 日本中国友好協会が発行している機関紙『日本と中国』の2022.10.1号と11.1号に彼女が書いた『シネマティックな日々』第1話、第2話が掲載されたこと。

第2に、公益社団法人 日本中国友好協会の東京の事務所を訪れてきた小川さんに、私が連載している『熱血弁護士坂和章平 中国映画を語る』の担当者である広報部の田中麻衣子さんが、私の『シネマ本』を手渡したところ、それに興味を持った小川さんから、「私の連絡先を教えてください」と言われて、教えたとの報告（メール）が入ったこと。

第3に、それを受けた私が、小川さん宛に2022年12/17に初メールをしたところ、彼女は年末に来阪にするため12/31のお昼なら難波で会って話ができるとのことだったため、「そじ坊」を予約して初対面し、約3時間話し合ったこと。

第4に、初対面で彼女の才能を直感した私は、彼女に映画制作・映画関連の会社の設立を勧めるとともに、その立ち上げのための資金援助の申し出をしたこと。

第5に、それを快諾した彼女から、早速様々な構想が提出され、翌2022.1/5に私の事務所に訪れた彼女との間で詳細を詰めるためのさまざまな話をし、一定額の資金援助の振り込みをしたことだ。

(3) 以降、小川さんは鹿児島に住み、プロデューサーとして、伊地知拓郎監督とタッグを組んで『郷 僕らの道しるべ』の制作に従事していた。そして、『郷 僕らの道しるべ』DVDを送ってきた。そして、第26回上海国際映画祭のアジア新人部門の作品賞、監督賞にノミネートされたので、自分と伊地知監督は、6/12から上海へ行く。ついては坂和も上海に来て、映画祭に来ないかとお誘いがあったので、熟慮の結果、行くことを決断。

(4) 小川と伊地知は、映画祭での舞台挨拶や取材をはじめ様々なイベントがあるが、私は映画祭での上映を鑑賞するだけなので、6/16（日）から6/20（木）まで4泊5日の日程で上海旅行に行くことを決定。そのことを李淵博クンや劉茜懿さん、孫晨俊クンらに

伝えた。なお、劉茜懿さんの展示会が6月6日から7月1日まで寧波でやっているの、ぜひそれにも参加してくれと誘われたため、それにも行くことに。

2. 通訳兼同行者の決定

1人で4泊5日の上海旅行はしんどいので伊藤日実子と話し、①通訳、②写真撮影、③旅行記のメモ作り、④現地での案内、⑤タクシー・チケット料金支払い、⑥その他一切の秘書、マネージャー等々の仕事（役割）を説明し、代わりに①飛行機代、②ホテル代、③食事代等をすべて坂和負担の条件を伝えたと喜んで一緒に行くとのこと。そこでなじみの旅行業者に依頼し、①日程 6/16～20、②飛行機代 1人 76,600 円、③ホテル代（セントラルホテル） 1人 71,200 円で決定し、振り込みを完了した。

3. 李淵博クン、李淵博クンの友人で毛丹青老師の表弟である劉雪非クンらと連絡

(1) 中国人の友人、李淵博クン、孫晨俊クン、劉茜懿さんに連絡し、上海での世話人が決定した。

(2) 上海行きの連絡をすると、3人が3人とも上海で私を案内してくれる友人たちを選んでくれたから、彼らの友情はすごい。まず、李クンは毛丹青老師の表弟である劉雪非クンを紹介。孫晨俊クンは上海でアート系の会社を経営している彼の最も親しい友人である張斯田を紹介してくれた。彼は日本語もペラペラなので心強い。そして劉茜懿さんは寧波で開催中の展示会に車で私たちを連れて行くため、友人の孟祥龍クンと杜阳クンと連絡を取り、迎えに来てくれることになったから準備は万端だ。私の上海旅行のために3人が3人ともこれだけの人的手配をしてくれたことに大感謝

4. 12年ぶりの中国旅行へいざ出発

(1) 私の最初の中国旅行は、2001年7月の大連旅行。この1回目と翌2002年7月の西安・敦煌旅行は、中国人留学生が夏休みにふるさとに戻る機会にご招待され、思い切って一人で旅立ったもの。これで中国旅行に慣れた(?)私は、以降何度も中国各地へのツアー旅行に参加した。さらに、①北京電影学園での講義(2004年)、②毛丹青老師のブックフェア参加、など20回近くになった。

(2) しかし、今回の上海旅行は2012年8月16～24日の「上海・合肥・南京・上海旅行」以来だから実に12年ぶりだ。その理由は第1に、2015年9月に大腸がんの手術した後は長期の海外旅行はしんどくなったこと。第2に2020年以降は、コロナ禍でロックダウンのため中国旅行は完全にアウトになったため。したがって、2015年6月25日～28日の北京旅行が中国旅行の最後になっている。

(3) しかし、2024年5月時点では日本の観光需要も大きく改善しているため、そんな状況下での小川夏果さんからの誘いにしっかり乗ることに。